

第100号
記念号
2021年1月

風

発行

群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大手町3-19-3

「風」はホームページでもご覧いただけます
<https://gunma-ccu.jp/>
Eメール: post@gunma-ccu.jp

群馬県生協連女性協議会は設立27年を迎えました。

『私たちは 台所のことだけでなく 福祉の水準や 環境のレベルの向上など 新しい視点で 社会を前進させることを 真に豊かな生活を 生協の場を通して 実現して行きたいと 願っています そんな願いの中 学習交流を目的として 女性協議会 が 生まれました』 交流し 学びあうことで意識をかえ、よりよい社会参加がしていけること、また 一人の人間として一人の女性として輝いて生きていける為に、たくさんの人々と出会い、学びあい、影響しあえることを大切に活動をすすめてきました。



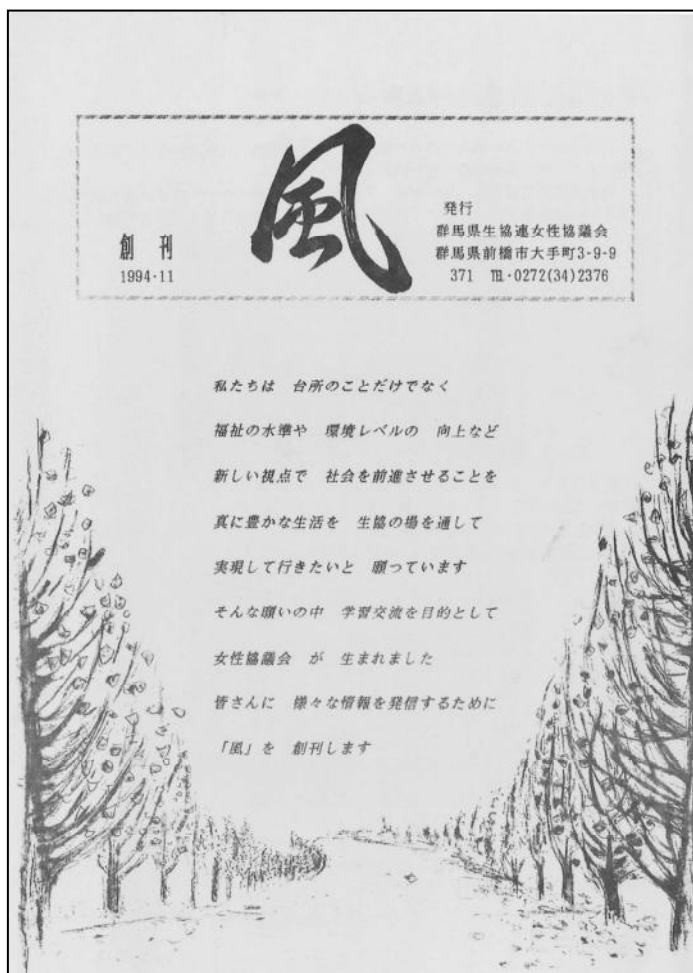
昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で私たちの生活は一変してしまいましたが多くの先輩たちから受け継いだバトンを次の世代に引き継いでいけるよう活動しています。

皆さんに様々な情報を発信するための「風」も第100号記念号を発行することになりました。記念号では女性にスポットを当てた視察研修会、組合員学習交流会、会員生協活動交流会など過去の活動の中での特徴的な活動を紹介します。懐かしく思われる方や参加できなかった方も女性協のあゆみを見て感じていただきたいです。

「風」の由来・・・ぐんま県はからっ風が有名なので「女性でいろいろな新しい風を吹かせてほしい」と願いを込めて「風」という名前になったそうです。新しい風、心地よい風など 風を形容する言葉は数多くあります。読者の皆さんのそれぞれのイメージで「風」を受けとめていただけたらと思います。

女性協議会会長 田中利恵子

(コープぐんま)



女性協議会の活動のあゆみ

群馬県生協連女性協議会は、創立以来様々な活動を展開してきました。「風」100号を記念して、過去の記事の中からいくつかのエピソードをご紹介します。まずは、男女共同参画の視点から、諸先輩の足跡をたどる旅、視察研修会（バスツアー）を実施してきました。

ゴールドパックあずみ野工場とちひろ美術館視察の旅

2003年9月 絵本作家 いわさきちひろの足跡をたずねて



いわさきちひろ「帽子の少女」1970年

ゴールドパックはCOOPのミルクスカロットや安曇野の水など多くのコープの飲料を製造しているメーカーです。オートメーションで目が回るような速さで飲料が製造されている工場に驚き見学終了後は、工場内の庭園での昼食も格別でした。

ちひろ美術館では、「いわさきちひろ」の代表的な作品から初期の油彩画・スケッチやデッサン・絵本の原画・自筆原稿など。他には、世界の絵本作家の部屋や、絵本の歴史の部屋など様々な作品に参加された皆さんは魅了させられて有意義な視察研修会となりました。（「風」第34号）



バスの中も楽しく



ちひろ美術館

荻野吟子記念館、さきたま史跡の博物館、サントリー利根川工場を視察

初の女性医師 荻野吟子の足跡をたずねて **2006年9月**

130年ほど前に日本で最初の女性医師となり、婦人解放のさきがけとして栄光と波乱の生涯を閉じた荻野吟子の生誕の地、『荻野吟子記念館』を訪ねました。

バスは予定通り出発、「チャチャチャ体操」でリラックスして、自己紹介をしあいました。「道の駅めぬま」でお昼のお楽しみお弁当を買って、目的の『荻野吟子記念館』へ。記念館では、観光ボランティアの方から説明を聞き、見るだけよりずっと印象強く、大変な努力で初めての女医になったことを知ることができました。



荻野吟子記念館見学

次に訪れた“さきたま風土記の丘”で昼食のあと『さきたま史跡の博物館』を見学。そのあと『サントリー利根川工場』を見学。施設や説明に感心しました。最後に出来たてビールを試飲、ビールのおいしい注ぎかたも教わり良かったです。帰りのバスで聞いた皆さんの感想では、『良い企画で楽しく充実した一日でした。』『初めての参加でも生協のつながりでとけ込みました。』『林会長のお話や、しおりの内容などで“男女共同参画”を理解することができました。』『来年もぜひ参加したいです。』といった声が聞かれ、大変充実した視察研修会でした。



初の女性医師 荻野吟子

★視察研修会★

ハンサムウーマン 新島八重に逢う旅

2013年10月 NHK大河ドラマ主人公の足跡をたずねて

NHK大河ドラマで話題を呼んだ新島八重の姿を新島襄ゆかりの地、地元安中で見てこよう、幕末から明治・大正にかけて近代日本をつくるために活躍した新島八重ってどんな人・・・旅の中で、参加者の皆さんとの交流も図りたいという研修会でした。

旧碓氷郡役所（写真左）で新島襄・八重子展を見学、ついで安中教会、新島襄旧宅（下写真）、龍昌寺、夫妻とゆかりの有田屋醤油・便覧舎跡・・・と新島襄・八重の“ヒストリート”をめぐりました。地元ボランティアガイドさんの説明の素晴らしいこと。丁寧で面白く、聞き惚れたり旧知の仲間のように語り合ったり・・・感謝です。



「激動の時代を前向きに柔軟に自分らしく生き抜いた八重を知ることができました」「色々な場面で沢山会話が弾みました。他生協、他団体の方々とのひととき…楽しい秋のひと日でした」「ガイドさんがついてくれて良かったです」「初めての参加、一人参加でしたが、和気あいあいさせてもらいました」参加者の皆さん、安中の皆さん有難うございました。（「風」第80号）



新島八重と夫の譲

「富岡日記」著者の生家を訪ね松代大本営を視察しました

富岡製糸場 一等工女 和田英の足跡をたずねて 2015年10月



富岡製糸場の一等工女和田英（えい）の生家（旧横田家住宅：長野市松代町）と松代大本営地下壕を見学しました。旧横田家住宅（国指定重要文化財）は松代藩武家屋敷で、簡素ながら厳かなたたずまいでした。英の向上心はこの土地この家で育まれていったのだろうと昔に思いを馳せました。



和田英の生家

富岡市のマスコット「お富ちゃん」は、2011年度まで「おエイちゃん」と呼ばれていました。

また、終戦までのわずか9か月間で総延長10キロに及び岩盤を掘削させたという松代大本営地下壕は、戦争がいかに不条理なものであるかを思い知らされました。コープながののお二人の理事にガイドしていただき更に理解が深まりました。

参加者からは、「沖縄で地上戦が始まると、国は本土決戦を決意し、沖縄戦を長びかせ時間稼ぎをしながら大本営の建設を急ぎました。沖縄戦の多大な犠牲は松代大本営と大いに関係があるのです。松代大本営という「壕」は日本国憲法の理念の真逆にあると感じずにはいられませんでした」などの感想が寄せられました。（「風」第85号）



松代大本営にて

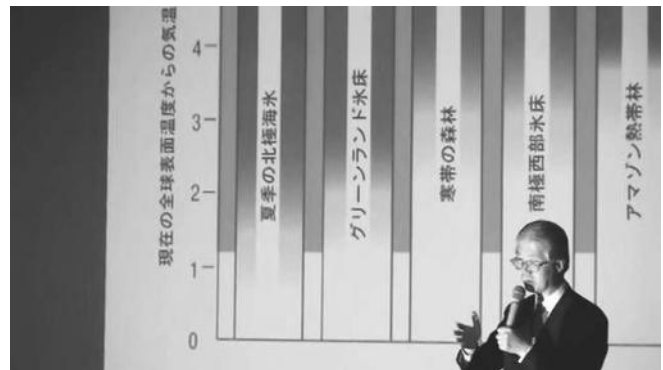
女性協議会の活動のあゆみ

女性協議会は、会員生協組合員向けに、「環境」「食の安全」「地域づくり」「子育て」「医療・介護」「機会均等」「女性の自立」「協同組合」「憲法」など様々なテーマを取り上げて、「組合員学習交流会」を開催してきました。（なお、講師の肩書は、当時のものです）

「地球温暖化の危機とは？ どうしたら解決できるのか」

講師 山本良一氏（東京大学生産技術研究所教授） **2009年4月**

女性協議会は4月4日（土）、県連創立50周年記念事業実行委員会との共催で、地球温暖化を科学の視点から理解し、社会や地域でどうすれば良いのかを学ぼうと、東京大学生産技術研究所教授で地球温暖化問題に詳しい山本良一先生を講師に招いて、『地球温暖化の危機とは？ どうしたら解決できるのか』と題する学習交流会を開催しました。学習交流会には140名の組合員や役員が参加しました。



山本良一先生

参加者からは、「環境問題に真剣に取り組む姿勢のある政党・政治家を選ばなければならないし、環境負荷の低い製品を購入し使っていかなければなりません。子どもたちの未来のために、大人は必死で考え行動すべきだということ、痛感いたしました」などの感想が寄せられました。（「風」第63号）

日本国憲法と私たちの暮らし

2016年5月 講師 石川多加子先生（金沢大学准教授）



石川多加子先生

5月14日（土）群馬県生涯学習センターにおいて組合員学習交流会を開催し、金沢大学人間社会研究域准教授 石川多加子先生をお招きし、「日本国憲法とわたしたちの暮らし」と題して講演していただきました。各会員生協から66名が参加しました。

石川先生は、現行憲法と自民党の憲法改正草案との対比表を資料に、改憲案の問題点を丁寧に説明していただきました。

難しい課題の講演でしたが、「自民党案の危険性や不当性がよく理解できました」「国家権力の暴走を抑える現在の平和憲法があったからこそ、戦後70年余の平和が続いてきたこと、戦前の日本政府の暴走や、ヒットラーの独裁

の成立の経緯などを振り返ると、現憲法こそあのような無謀な政権の誕生を許さない大きな抑止力であり皆であることがわかりました。正しい判断をせねばと改めて認識させられました」などの感想が寄せられました。

（「風」第87号）



組合員学習交流会のようす

★組合員学習交流会/会員生協活動交流会★

2015年からは、グループ別交流を取り入れた「会員生協活動交流会」を新たに開催することとしました。2020年度までに、4回の交流会を実施しました。

暮らしやすい地域づくりのために今生協ができること

2015年2月 基調講演 安齋徹氏 (県立女子大学准教授)



安齋徹先生

県立女子大学准教授安齋徹先生による基調講演として、「地域づくりに向けた男女共同参画の視点」をお聞きしました。地域や職場が活性化するためには女性の力が不可欠であること、そしてそのために、①ワークライフバランス、②ダイバーシティ（一人一人の多様性を生かすこと）、③リーダーシップ（コミュニケーションと協調性）が大切であると話されました。

次に4生協（はるな生協、群馬中央医療生協、コープぐんま、パルシステム群馬）からの活動報告で、それぞれ反貧困、学習支援、サロン、託児の取り組みについて発表がありました。

最後のグループワークでは、安齋先生の基調講演と4生協の報告を受け、自生協の資源を生かし、どのような活動を行っていいのかなどを話し合いました。
（「風」第86号）



地域における女性リーダーの役割

基調講演 小林良江氏 (県立女子大学学長) **2018年5月**

基調講演は、群馬県立女子大学で初の女性学長になられた小林良江先生に、「地域における女性リーダーの役割」と題してお話いただき、多くのデータを駆使して大事な問題を提起されました。日本のジェンダーギャップ指数は世界144ヶ国中114位であるということ、群馬県は、県会議員の女性比率が全国44位(2人しかいません)。自治会長と、市区町村審議会の女性参画率は、ともに全国最下位などの報告がありました。群馬県では、男性の方が優遇されていると思う人が全国平均より高く、特に「社会通念、しきたり、習慣」における女性の不平等感



があるとのことです。

女性が管理職(リーダー)を目指さない理由として、理想は高く、自己評価は低いことが原因がある様です。女性もリーダーとなれる社会は、男も女も生きやすい社会になる。女性リーダーという言葉がいづれなくなるように、リーダーに男も女もない社会を目指しましょうと締めくくられました。



参加者はその後、6つのグループに分かれてグループ別交流会を行いました。
（「風」第93号）

新型コロナウイルス感染症の影響により、女性協の活動も多くの制約を受けています。今回ご紹介したような活動が、一日も早く新しい形で再開できることを願っております。

10月14日(水) パルシステム群馬本部を訪問しました 男女共同参画推進のため「人の定着」を大切にしています

4月より延期になっていた第1回女性協懇談会が、10月14日パルシステム高崎センターにて開催されました。懇談会は、昨年実施した男女共同参画アンケートにもとづき意見交換を行うという趣旨で企画されましたが、今年度は新任の運営委員が多数を占めるため会員生協の理解をすすめる良い機会にもなりました。



パルシステム群馬との懇談のようす

パルシステム群馬との懇談会は2017年にも行われていますが、長時間労働の解消、女性職員の定着や管理職の登用、地域限定職員導入の推進などその時の視点と課題の改善に継続的に取り組んでいることがわかりました。特に、残業時間の短縮は印象深い取り組みでした。女性の配達担当数が少ないと感じましたが、実施しているオンラインアンケートを活用し、より女性が働きやすい職場作りに活かして欲しいと思います。

記事：運営委員 富永みどり（パルシステム群馬）

今回は懇談及び見学をさせて頂きありがとうございました。

男女共同参画をすすめる為の仕組みを作り、少しずつでも着実に成果となって現れていると思いました。

まずは“人の定着”とお話がありましたが本当にその通りだなあと感じます。

私自身が配送業務に多少関わっているのですが、人それぞれライフステージによっても働きやすいと思う条件は違うので、柔軟な対応が可能な制度があることはありがたいです。

託児ルームや広さ調節が可能な調理室など、活動しやすそうだととても魅力的でした。

感想：運営委員 中島瑞恵（生活クラブ生協）

今回、県連女性協議会の皆様にパルシステム群馬本部へお越しいただき、組織の概要や男女共同参画の取り組みなどを報告し、意見交換をさせていただきました。前回から2年ぶりの貴重な機会をありがとうございました。

前回実施からも継続して、労働環境や人事制度の改善、時間外労働削減に取り組みなどによって職員の定着率を着実に高めてきてきました。「ずっと働き続けたい」と思ってもらえる労働環境整備は「男女共同参画」をすすめる上での基本です。この間、管理監督者層に女性を2名登用し、正規職員登用への女性比率も高めてきております。今回の懇談会を契機に、これからも女性の活躍のできる職場環境づくりに更に取り組んでまいります。

感想：中嶋義幸専務理事（パルシステム群馬）

コープぐんま本部を訪問しました 11月11日(水) 採用やリーダー職員の女性比率等の計画をすすめ、5回口のくるみんを取得しました

2020年11月11日「コープぐんまと県連女性協議会との懇談会」にコープぐんま役職員4名、女性協議会運営委員と事務局8名が出席し、懇談を行いました。

この懇談会は、昨年実施した会員生協男女共同参画アンケートに基づき、女性協と会員生協と

の意見交換を行いたいとの趣旨で企画しました。当日はコープぐんまから女性活躍を進める行動計画について報告があり、それを受け活発な意見交換が行われました。

更なる女性活躍の場を広げていただきたいと、女性協運営委員一同強くコープぐんまに期待しています。そして今後も一緒に活動を進めていきたいと思えます。

記事：運営委員 木樽千恵子（コープぐんま）



コープぐんまとの懇談のようす

組織の中で女性の活躍を大いに期待し、5回目のくろみん取得をはじめ、女性の採用数や、女性リーダー職員層の数等、具体的な行動計画を立て、実践している事に大変感銘を受けました。仕事を続ける上で「子育てと仕事、介護と仕事」等悩ましい時期もありますが、顧客に女性が圧倒的に多い

当生協ですので、女性ならではの発想や、行動の展開も期待するところです。「週1回馴染みの配達員さんが来ると安心する」近所の人の声です。今後も益々地域に愛され、男女問わず、働きやすく風通しの良い職場づくりに期待します。

感想：運営委員 下田晶子（北毛保健生協）

コープぐんままでは、男女の別なく職員が生き生きと働き続けることのできる職場を目指しています。特に人手不足と長時間労働が課題となっていたため、昨年は職員の採用に特に力を入れて取り組みました。その結果、昨年度の残業時間は前年に比べて大幅に削減することができました。

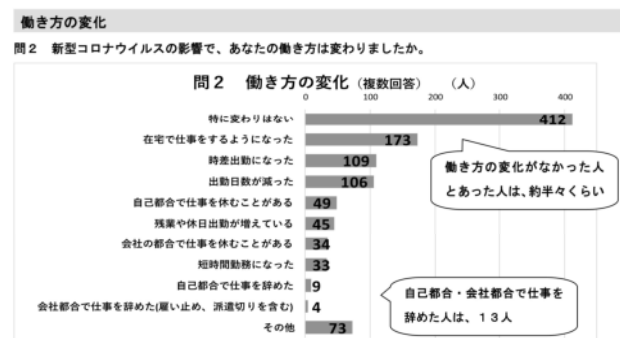
また、職員ミーティングで、どのような職場が「働きやすい職場」なのか意見を出してもらい、それに基づいて具体的な取り組み目標を定めました。コロナの影響で思うように進んでいないところはありますが、定期的に進捗状況を確認しています。これからのコープぐんまを担っていく職員の育成を計画的に進めていきたいと思えます。

感想：管理部人事課長 内山玲子（コープぐんま）

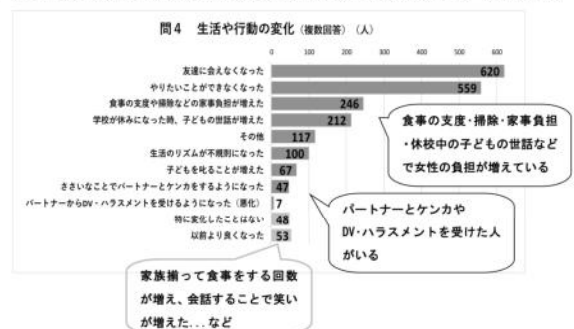
ぐんま男女共同参画センターが コロナの女性への影響アンケートを公表しました

ぐんま男女共同参画センターが昨年9～10月に行った「新型コロナウイルス感染拡大が女性に及ぼす影響に関するアンケート調査」の結果がまとめられ、公表されました。

「特に変わりはない」との回答が一番多かったものの、「収入が減った」20.2%、「今後減りそう」37.3%と収入面での不安や、69.7%が「心身に変化があった」と回答していて、多くの女性が影響を受けている状況がわかりました。



問4 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、あなたの生活や行動に変化がありましたか。(複数回答可)



8月5日(火)

運営委員学習会を開催

ぐんま男女共同参画センター石井所長の講演を聞きました

8月5日ぐんま男女共同参画センター所長の石井富美代氏を講師に、「男女共同参画の歴史と群馬県の男女共同参画の現状」をテーマに学習会を開催しました。

日本は政治・経済・指導的立場の分野で世界に大

きく遅れ

ており、県内では働く女性は全国平均より多いがその多くが非正規とのことでした。

SDGsの実現「誰一人取り残さない」、すべての分野に男女共同参画の視点を～ジェンダー主流化～を目標に男女共同参画社会を推進してほしいとの言葉に出席者全員が大きく頷いていました。

記事：副会長 藤原京子（利根保健生協）



石井所長



運営委員学習会のようす

本日は、今までモヤモヤと感じていたジェンダー不平等感を、国際比較や国内の女性参画状況の『数字』としてはっきり示され、落胆しつつ納得しました。同時に、私自身が「自治会長は男性の仕事」と思い込んでいなかったか…と反省もしました。これからは、身近に潜んでいる男女の役割分担意識や固定観念にもっと気づき、周りの人達と話し合い、男女共同参画の意識を広げていけるようになりたいと思います。

感想：運営委員 中野真由里（群馬中央医療生協）

『男女共同参画社会（＝ジェンダー平等社会）とは、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会のことである』

男女共同参画ってなに？ よくわからないと周りの人に言われていますが、今回お話を伺って、最近広まっているSDGsの1つ、「【目標15】ジェンダー平等」のことですよ、と言うと、わかってもらえそうな気がしました。

残念ながら、群馬の自治会長や議員の女性割合は全国でも最下位だということです。

自分自身も気付かなければいけないことに、無意識の差別（マイコンシャスバイアス）がありますが、例をあげて「こんなことなあ～い？」と話して、意識を少しでももってもらえればと思います。

感想：運営委員 吉田寿美子（はるな生協）